

コロナ禍で結婚式の数が減少している。その一方、式の代わりに写真撮影を行うフォトウェディングの注文数は増加している。写真スタジオ事業を展開する株式会社キャラット(香芝市鎌田・佐野隆之代表取締役)の佐野社長は「フォトウェディングは前年比10倍ほどになっている。コロナ禍で中止せざるを得なくなった結婚式の向かう先が写真撮影だったので」と分析する。またコロナは「家族の記念日をより一層大事にさせた」と語る。佐野社長に今のトレンドや今後の展望を聞いた。

# フォトウェディング、件数増 コロナ禍で人の意識に変化

オなのですか  
1家族で2時間、完全に  
スタジオの空間を貸し切  
り、他のお客様と一緒に  
ならないスタイルとなっ  
ています。カメラマンとヘア  
メイクはいますので、個室  
の美容室や個室のファミリ  
ー美容室といった感じで考  
えていただいたら。コロ  
ナ禍という時代、知らない  
人が近くにいることが敬遠  
されがちになっています  
し、他のお客様に遠慮す  
ることもなくご利用してい  
ただけます。

「コフは先日、真美ヶ丘にも新たにオープンされましたね。貸し切りということがどういったスタジ

「スタジオコフレ」。そして  
「フォトウエディング写真専  
用の「クレールブライダ  
ル」、最後が17歳から20歳  
までの女性を対象に、振袖  
のレンタルと撮影を行な  
う「振袖ラブリ」になります。  
中でもキャララットとコフレ  
の店舗数が多く、全体の約  
6割を占めています。

「どのような事業を開拓されていられるのですか。

香芝市 株式会社キヤラット 佐野社長に聞く

店での滞在時間をできる限り減らすことです。ネットでの予約は以前から行っていましたが、さらに100点を超えるレンタル衣装や、撮影の際の衣装といったものを事前に選ぶことができるようになりました。店舗の中で無理に全てのサービスを完結させるのではなく、店舗でしかできないことしかしない。そうすることで滞在時間が短くなりお客様にとっても便利で、こちらも省略化できる安心安全に密を避けて管理

「コロナ禍になり会社として新たに取り組まれたことがありますか。

り世の中の情勢である程度リンクした利用数になつていました。

ですが、子どもの撮影というものはやはり、成長のタイミングで撮りたいものですね。コロナ禍にあって、家族の記念日というものを余

事態宣言時には全店舗を休業しました。宣言明けには休んでいた間、待っていてくれた方もいたため撮影数は増加しました。しかし感染者が再度増加して、さら

—利用者の声などを反映したサービスはありますか。

撮影中、自分のスマホでの撮影を許可しています。これは「スタジオ内で自分のスマホを使って撮影したい」というお客様からの要望に応えたものです。家族や妻が撮影されている様子などを、自分のスマホで撮影していくことがあります。僕らが撮影したプロの写真と、自分が撮った臨場感のある写真が手に入ることでとても良い

する」などが「ある」ことの  
はとても大きいと思いま  
す。

か二たのでしょ二か  
フォトウェディングは  
コロナ前でも徐々に伸びて  
いました。もともと結婚式  
を行う人というのは、婚姻届  
届を出す人の約半分だと言  
われていました。その残り  
半分の人も何もしないわけ

計に大事にするようになつて  
いる感じました。その  
中で、急速に増加したのが  
フォトウェーディングです。  
昨年ベースで10倍ほどの件  
数になっています。

—先日、防災キー・ホルダーのプレゼントキャンペーントをされていましたが、こちらはどのような経緯で作られたのですか。

思い出になつたと喜んでいた  
ただいています。

小さくなつたと、中で  
その向かう先が写真になつ  
てきてゐるというのが頗著  
に表われています。

コロナ禍になり、人が集まつてはいけない、式場を閉めないといけなくなつた、となつたために、式の数が急激に落ちました。そ



社員の実体験をもとにした発想から生まれた「防災キー・ホルダー」

そのニーズをしっかりと叶えていきたいし、写真だけの関係に終わらないつながりを提供していきたいです。

の展開を提供していくた  
と考  
え  
て  
ま  
す。

「これからは展開していくべきの一つなことをお考えですか。